

2021年度国際版画美術館事業報告書【展覧会版】

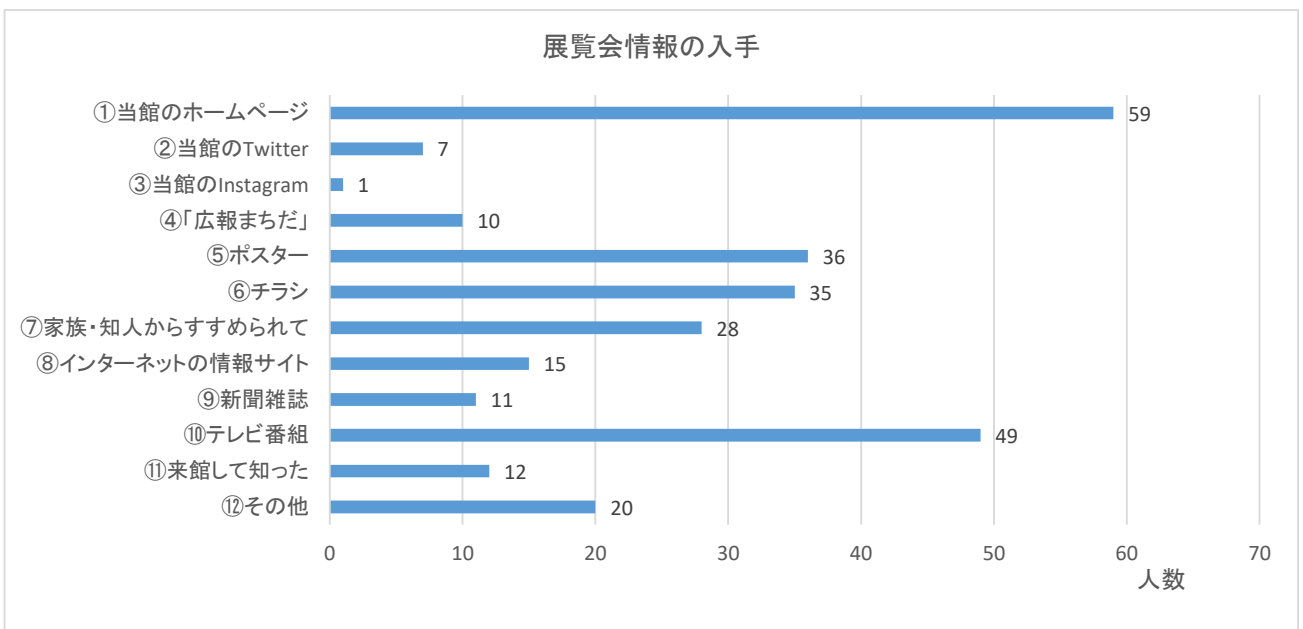
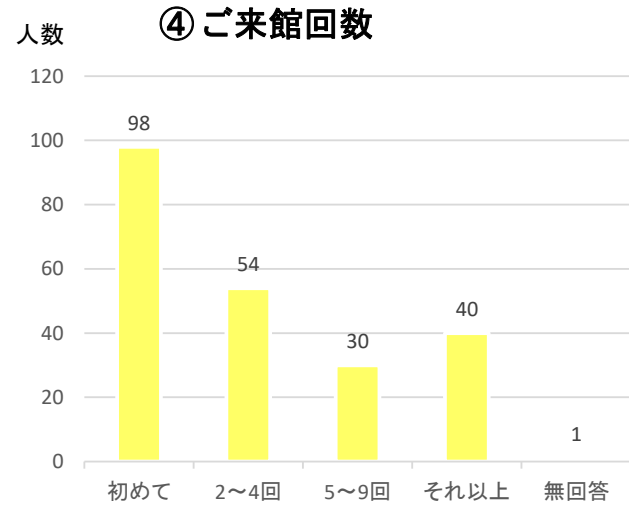
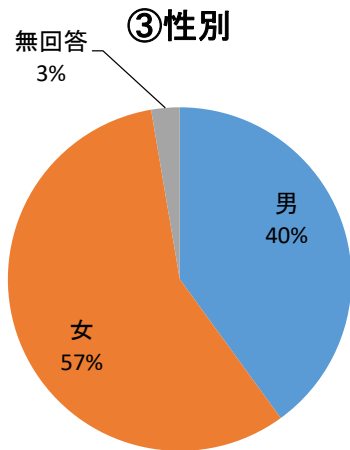
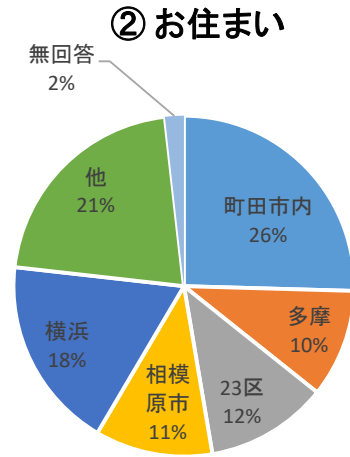
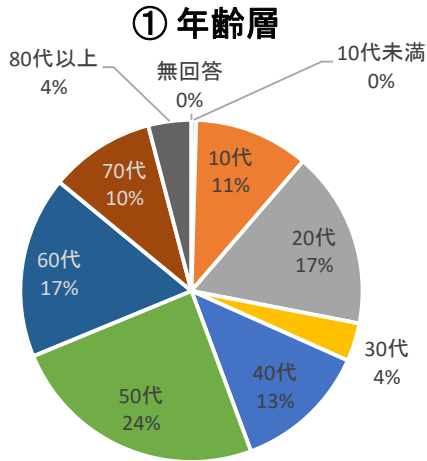
展覧会名	#映える風景を探して—古代ローマから世紀末パリまで		担当者名	高野詩織、和南城愛理、藤村拓也			
会期	2021年4月24日(土)～6月27日(日) ※緊急事態宣言発出に伴い、4月25日(日)～5月31日(月)は臨時休館		開催日数	25日間 ※当初予定:56日間			
協賛・後援・協力	【助成】公益財団法人 花王芸術・科学財団						
巡回館	なし						
展覧会概要	「映える風景」をテーマに、16～19世紀のヨーロッパで制作された版画、挿絵本、油彩画、写真を展示する特別展。古代ローマの荘厳な遺跡や、神話の世界を思わせる森、賑やかなパリの市街地など、さまざまな場所をめぐるように構成した。それぞれの時代に流行した風景画の特徴や、その楽しみ方を紹介した。なお、本展は緊急事態宣言発出に伴う臨時休館のため31日間閉室し、関連イベントの中止および日程変更などを行った。						
ねらい・対象	印象派やバルビゾン派などに代表される西洋の風景画は、日本で特に人気が高い絵画のジャンルである。そのため従来の美術ファン層を第一のターゲットとし、首都圏近郊から版画美術館まで足を運んでもらうことをねらった。また第二のターゲットは、SNSに親しんでいる若年層である。「映える」という現代的な価値観と重ね合わせて風景画の歴史を辿ることで、キャッチーでわかりやすい展覧会を目指した。						
関連催事	催事名	開催日	タイトル	講師等	参加者数		
	プロムナード・コンサート	6月5日(土)	歌唱旅行 → 歌で巡る西欧の国々	奥村 浩樹(テノール)、鵜戸西 到(ピアノ)	120		
	赤ちゃんのための鑑賞会	6月9日(水)	おうちで版画美術館	富田めぐみ(NPO法人 赤ちゃんからのアートフレンドシップ協会代表理事)	13組27名		
	公開制作	6月12日(土)	#映える細密銅版画のつくりかた	尾崎 ユタカ(版画家)	51		
	記念講演会	6月19日(土)	パリの景観について	鹿島 茂(フランス文学者)	50		
	記念講演会	6月26日(土)	クロード・ロランと理想風景画—17世紀から19世紀へ	小針 由紀隆(元静岡文化芸術大学教授)	50		
	スライドトーク	6月20日(日) *5月2日(日)の第一回は中止	担当学芸員によるスライドトーク	当館学芸員 高野詩織	47		
観覧料	一般	大・高生					
	900 円	450 円					
観覧者数	有料計	無料計	総観覧者数	内、一般	内、大・高生	内、小・中生	内、その他
	2,773 人	1,306 人	4,079 人	3,753 人	226 人	100 人	— 人
	目標値 6,690 人						
主な収入	観覧料収入	図録販売収入	受託販売収入	その他の特定財源			
	2,049 千円	580 千円	21 千円	1,000 千円			
事業経費	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講師謝礼 110千円</li> <li>・事業協力謝礼 367千円</li> <li>・通信運搬費 2976千円</li> <li>・事業・業務委託 1500千円</li> <li>・ポスター等作成委託料 2964千円</li> <li>・ディスプレイ作成委託料 1254千円</li> </ul>			9,171 千円			
主な広報・取材等の講評	【テレビ】BS日テレ「ぶらぶら美術・博物館」、NHKエデュケーショナル「日曜美術館アートシーン」、多摩テレビ、JCOM、イッツコミュニケーション 【新聞】朝日新聞(全国版)、東京新聞(多摩版) 【ラジオ】エフエムさがみ 【雑誌】美術の窓 【Web】美術手帖WEB版、町田相模原経済新聞ほか						

アンケート結果	回収数	回収率	市民率	リピーター率	満足度(とても良かったと良かったの率)		
					企画の内容	展示作品	展示の仕方等
	231 件	5.6 %	26 %	56 %	98.7 %	98.7 %	87.1 %
	主なご意見	別紙のとおり。					
工夫と反省点、改善方法	予備調査	2016年頃から企画を構想し、展覧会実現に向けた本格的な作品調査は2020年9月頃から開始。同年10月から他館への出品交渉も進めた。コロナ禍の影響で当初予定していた「版画の行方」展が中止となったため、本企画の実施は開幕の8か月前に決定した。予備調査を早期から進めていたものの、スケジュールは極めてタイトであった。					
	作品選択	当館の収蔵品を中心に、約300年にわたる西洋風景画の歴史を辿るように構成。フランス、イギリスを中心に様々な地域の風景を集めた。風景画は小さな作品が多いため、版画のみならず油彩画や写真、大型ポスターを出品し、展示が単調にならないように心掛けた。					
	図録	気軽に手に取ってもらえるように、B5変形判、192頁の小ぶりな図録に仕上げた。カラー印刷の作品図版ページには、短いコラムを25本掲載した。その他、作者作品解説、論文3本、年表、地図、参考文献を資料として掲載し、資料としても充実させることを目指した。年末年始を挟んだため印刷会社との業務委託契約が遅れ、図録の作成スケジュールが遅れたことは反省点である。今回は会計年度任用職員を含む計4名の学芸員で執筆を分担したため納期に間に合わせる事ができたが、今後は契約手続きを早めに進めるようにしたい。なお、会期中の図録販売数は263冊だった。					
	広報	「映える」というキャッチーなフレーズを展覧会タイトルに決め、特色インクを用いたビビッドな色遣いの広報宣伝物を作成した。テーマの目新しさから本展覧会はメディアの注目を集め、BS日テレの「ぶらぶら美術・博物館」、NHK Eテレの「日曜美術館アートシーン」の2番組で取り上げられた。番組をきっかけに西洋版画に関心を持つようになったという来館者も多く、本展を通じて「版画の力を知ることができた」という声も寄せられた。					
	宣伝	多摩地区を中心とする主要駅へのポスター掲示、市内の全小中学生へのチラシ配布を実施。展覧会ポスターの駅貼りには展覧会開幕直後・GW後の時期の2期に分けて実施したが、いずれも結果としては臨時休館の期間に重なった。それでも展覧会の情報元にポスターを挙げた来館者はアンケート回答者の約15%を占めていることから、宣伝効果は高かったと言える。掲出期間を長くしてリスクを分散させるなどして、駅貼り広告は今後も続けていきたい。					
	VR	版画美術館の主催展覧会としては初の試みとして、展覧会場のVRを作成した。作成の目的は、見どころをオンラインで配信することで臨時休館明けの展覧会再開について広く周知すること、芸術鑑賞の機会を市内外の人々に提供し、公立美術館として教育普及活動に役立てることにあった。VRの完成とほぼ同時期にプレス各社にメールで情報リリースをしたこともあり、この取り組みは読売新聞ほか複数のメディアに取り上げられて話題になった。今後もプロモーション活動および教育普及活動の一環として、作成の機会を探りたい。					
	ディスプレイ	展覧会テーマに合わせて、ポップな色遣いのパネルやキャプションを作成。コラムや解説は文字が小さいという意見も少なからず寄せられたが、文字量などは適当で「説明がわかりやすい」と概ね好評だった。また本展覧会では、通常の看板に加え、プロジェクターで投影するスライドショー式の撮影スポットもエントランスに設置した。					
	イベント	5月に予定していた公開制作、プロムナード・コンサート、記念講演会を延期した他、学芸員によるスライドトーク1回を中止とした。6月に開催したイベントはどれも盛況で、講演会とスライドトークには約50名が参加した。子ども向けの鑑賞イベントは、近年特に需要の高かった0～2歳の乳幼児のみを対象に実施した。市内から北海道まで幅広い地域から参加があり、参加者アンケートも好評だった。今後も子育て世代のニーズに応えられるイベントを企画していきたい。					
	作品輸送	首都圏を中心に6か所の美術館・図書館から資料を借用した。本展覧会と同時期に他の美術館でも西洋風景画展があったため一部作品がバッティングし、出品交渉に時間を要した。そのため輸送業者との契約に一部変更が生じたが、借用・返却の作業はスムーズに進行した。					
展示撤去	4月20日(火)から3日間で展示作業を行った。版画美術館では展示機会の少ない大型油彩画の展示作業に時間を要したが、係内4名の職員で分担して立ち会ったことで作業が効率化でき、全工程が時間内に終了した。今後も展示撤去には複数の職員が協力できるような環境を整えたい。						
その他特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本展は、版画学会との共催展として当初予定していた「版画の行方展」を変更して開催したものである。</li> <li>・本展覧会の会期は全56日間を予定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う緊急事態宣言の期間と重なったため25日間の開室となった。6月1日の再開後も外出の自粛傾向は続いたが、1日平均160名の来場(観覧者目標は120名/日)があり、コロナ禍の展覧会としては大いに賑わった。</li> <li>・各種の割引制度を導入した。利用者数は右記の通り; 200円引(リピーター割引)13名、100円引(ウェブクーポン割引、タクシー割引、パスポート割引、シェアサイクル割引)556名。</li> </ul>						

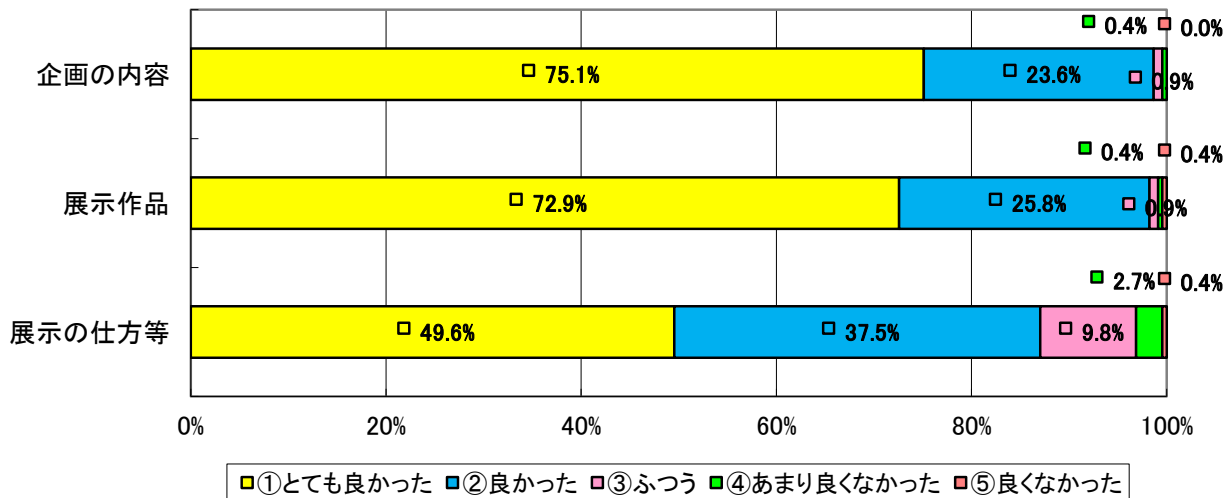
# 「#映える風景を探して」 展 アンケート集計結果

開催期間：2020年4月24日（土）～6月27日（日）\*4月25日（日）～5月31日（月）は臨時休館

回答者数： 231 人（総入館者数：4,079人 アンケート回収率：5.6%）



## ⑥ 回答者の満足度



## ⑦ 主なご意見・感想

### ◆内容について

- ・「映える」という言葉から企画する発想が面白く素晴らしい
- ・当時の人たちの知らない土地へのあこがれや、出会った時の感動が伝わるような展示でした
- ・時代背景まで書いてあるのが面白かったです ・旅をしているような気持ちになりました
- ・これほどレベルが高いのをコロナの中であつめられて大変ご苦労だったとも思います。すごい一言です
- ・エッチングや写真、絵画それぞれの意味が歴史的な流れとともに追うことができてよかったです
- ・絵で知ってる人が、版画もしているのをはじめて知り見ることができた
- ・「エジプト誌」に圧倒された
- ・版画の手法の違いをよく知らないなので、知りたいと思いました
- ・版画の力を知ることができた。また来たい。
- ・予想以上に展示数が多く、見ごたえがあった ・展示作品が少々内容薄と感じます。
- ・久しぶりに美術館に来ることができてとても幸せでした

### ◆会場について

- ・キャプションはもう少し大きい方がありがたい
- ・キャプションがわかりやすい ・説明がわかりやすい
- ・順路があってわかりやすかった。 ・導線がわかりにくいのに矢印？
- ・展示物が自分の影に入ってしまうところがあるので照明を工夫してほしい
- ・作品が高い場所にあり小さいのでよく見えませんでした。

### ◆写真撮影について

- ・スマホのカメラで作品を撮るのに熱中している人が多くて、シャッター音がうるさい。  
撮影可能なものは3~4点くらいにしてほしい
- ・「音に気を付けてください」などの掲示をしてほしい
- ・フラッシュをたかなければ写真撮影可能なのもとてもありがたかったです

### ◆その他の要望

- ・ステレオ写真は実体視できるような展示がよい。スライドも映写したほうがよい
- ・最後に展示してある地図をプリントして配布するとわかりやすい
- ・トイレは温水洗浄式にして下さい！！
- ・シャトルバスを続けてください。
- ・他にも風景画の展示をもっと見たい